

| | |
|------------------|---|
| Title | Gustave Schelle 'L, Economie politique et les économistes, avec une introduction sur l'économique et la guerre |
| Sub Title | |
| Author | |
| Publisher | 慶應義塾理財学会 |
| Publication year | 1917 |
| Jtitle | 三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.11, No.9 (1917. 9) ,p.1248(116)- 1249(117) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 批評と紹介 |
| Genre | Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19170901-0116 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

批評と紹介

Gustave Schelle, L'Économie politique et les économistes, avec une introduction sur l'économique et la guerre
(Paris: Octave Doin et Fils, 1917)

本書は佛國に於て刊行中なる科學全書 (Encyclopédie scientifique)の一冊として上梓せられたものである。此叢書は純粹並に應用科學の全部に亘りて最近の研究、發見、發明、學說等を専門家及び一般有識階級に紹介するを以て目的とし、各問題に一冊宛振當てる計畫で、全冊數は約一千冊に上り、脱稿の順に從ひ漸次印刷する豫定である。此一千冊中經濟學に屬するものは四千冊で、其の取扱ふ問題は經濟學の殆んど全般を網羅して居ると云つて差支へない。

本書は紙數四六版三百八十三頁で外に卷頭に

十八頁に亘る緒論を載せてゐるが、此緒論にて著者は各交戰國の經濟が戰爭の爲め多大の打撃を受け幾多の變態を呈しては居るが一方に於ては貨物の生産、消費、交換等が依然として盛に行はれ且つ經濟法則が平時と同様に作用しつゝあるの事實を指摘し、戰時の經濟學が平時の經濟學と異なれりと論ずる獨逸經濟學者の説を駁したる後、轉じて歐洲交戰國の戰時財政に対する概評を試みて居る。第一章の論題は(一)經濟學の定義、(二)一般の法則、(三)複雜なる經濟現象、(四)實驗の不可能、(五)現象の變動、(六)經濟の法則、(七)科學と應用等其他一二三であるが著者が本章に於て高唱せんと欲せるは經濟學が物理學、天文學と同じく一個の立派な科學であると云ふ一事に存して居ると思はれる。多くの論者の如く經濟學は自由意志に支配せらるゝ人間の行爲より生ずる複雜なる現象を研究する學問であるが故に無生物を講究の材料とする物理、

天文學等の所謂純正科學と同一視するは誤りであると論ずるは著者の極力排斥せんとする所であつて、其自説の正確なるを立證せんが爲めに種々適切なる例證を擧げてゐる。第二章以下第十八章に亘りては價格、利子、貨銀等に關する法則即ち經濟原理よりは寧ろ經濟政策に關する古代より今日に至る迄の有力なる學說を紹介して居るが、其記述は政策の主唱者よりも、寧ろ問題を主として論ずるの方法に依つてゐる。最後の二章(第十九章及第二十章)では統計學一般並に經濟學の現狀を略述し卷を終つて居る。

概して云へば、本書の大部分は其内容に於ても論述の方法に於てもジード、リスト合著の經濟學史に遠く及ばざるものである。然しながら、緒言及び第一章に於ける經濟學の本質に對する議論は大に傾聽するに足るものであると云ひ得る。此事と佛國民が舉つて強大なる仇敵と戰ひつゝある眞最中に本書の如き際物的臭味の少